

プログラム

プログラム

会場名	A会場	B会場	C会場	D会場	ポスター会場	
階・部屋	2階 講義室	3階 3114教室	3階 3201教室	3階 3205教室	1階 INIADプレゼンテーションハブ	
9 月 10 日 (月)	9:00 受付開始					ポスター発表 (閲覧のみ) ※11:00までに掲示 してください。
	9:15	シンポジウム-1 省エネ活動のハードウェアづくり ー自然エネルギー 100%大学の事例- 杉本卓也 原科幸彦 9:30~12:00	シンポジウム-2 室内環境における 化学物質管理の現状と 関連法規制の動向 雨谷敬史 三宅祐一 9:30~12:00	9:30	口頭発表1D-1 循環型社会 9:30~10:45 田畑智博	
	9:45			10:00		
	10:15			11:00	口頭発表1C-2 環境技術 11:00~12:00 中井智司	
	10:30			11:15	11:30	11:45
	12:00	昼休み 12:00~14:00				ポスター発表・討論 12:00~14:00 コアタイム 12:30~13:30 優秀発表賞審査・投票 14:00〆切
	12:15	シンポジウム-3 アジアにおける都市化と グローバル化に由来する 環境衛生の課題 戸敷浩介 内藤博敬 14:00~16:30	シンポジウム-4 地域環境政策における トランジションマネジメントを 考える 白井信雄 杉山範子 14:00~16:30	13:15	口頭発表1C-3 リスク・曝露評価 14:00~15:15 東海明宏	口頭発表1D-3 政策評価・提言 14:00~15:15 阿部直也
	13:30			14:00	14:30	15:00
	13:45			14:15	口頭発表1C-4 環境動態 15:30~16:30 三宅祐一	口頭発表1D-4 都市とエネルギー 15:30~16:30 中谷隼
	14:00			14:45	15:15	15:45
	16:15	表彰式／特別講演会 16:45~17:45				ポスター発表 (閲覧のみ)
	16:30	交流会(若手育成事業表彰式を含む) 18:00~20:00 1階食堂				
	16:45					
	17:00					
17:15						
17:30						
17:45						
18:00						

会場名	A会場	B会場	C会場	D会場	ポスター会場		
号館・階	2階 講義室	3階 3114教室	3階 3201教室	3階 3205教室	1階 INIADプレゼンテーションハブ		
9 月 11 日 (火)	9:00 受付開始					ポスター発表 (閲覧のみ) ※15:00までに 撤去してください。	
	9:15	シンポジウム-5 低環境負荷社会に資する 都市・地域の形成にむけて 荒巻俊也 中谷隼 9:30~12:00	シンポジウム-6 CCSの国内法と アジア地域における 共通プラットフォームの 整備に向けて 柳憲一郎 小松英司 9:30~12:00	シンポジウム-7 スクリーニング分析法を 用いた水道水質検査 小林憲弘 木下輝昭 9:30~12:00	9:30		口頭発表2D-1 再生可能エネルギー 9:30~10:45 村野昭人
	9:45				10:00		口頭発表2D-2 省エネルギー 11:00~12:00 田崎智宏
	10:15				11:00		11:15
	10:30				11:45	12:00	12:15
	12:00	昼休み 12:00~13:30				ポスター発表 (閲覧のみ) ※15:00までに 撤去してください。	
	12:15	シンポジウム-8 環境情報科学研究の 成果と展開 山本佳世子 小野聡 13:30~16:00	シンポジウム-9 アジア地域における 持続可能な消費・生産パターン への転換のための政策提言 平尾雅彦 田崎智宏 13:30~16:00	12:30	口頭発表2C-3 国際環境問題 13:30~14:45 荒巻俊也		口頭発表2D-3 環境指標 13:30~14:45 本下晶晴
	12:45			13:00	13:30		14:00
	13:00			13:45	口頭発表2C-4 環境分析 15:00~16:00 小林剛		口頭発表2D-4 環境情報と意思決定 15:00~16:00 吉田綾
	13:15			14:15	14:45	15:00	
	13:30	後片付け					
	13:45						
	14:00						
	14:15						
14:30							
14:45							
15:00							
15:15							
15:30							
15:45							
16:00							

※ シンポジウムの枠内の氏名はオーガナイザー、口頭発表セッションの枠内の氏名は座長です。

口頭発表（一般発表）

【1日目（9月10日）午前】

口頭発表 1C-1 「自然災害」

C会場（3階3201教室）10：00～10：45

座長： 一ノ瀬俊明（国立環境研究所）

- 1C-1000 Himawari-8を用いた北西太平洋域の高空間・高時間分解能雲分類マップの作成
-2016年に発生した台風18号に着目して-
○佐藤勝哉, 白木洋平 (立正大学)
- 1C-1015 自然災害による資産価値への影響—鎌倉市の公示地価を用いた分析—
浦綾夏, 及川亜里沙, 吉岡択益, ○杉野誠 (山形大学)
- 1C-1030 再生可能都市の実現に向けた空間構造変更策の検討手法
○加藤博和, 朴秀日, 大野悠貴 (名古屋大学), 山中英生 (徳島大学), 北詰恵一 (関西大学),
奥嶋政嗣, 渡辺公次郎 (徳島大学), 井ノ口弘昭 (関西大学), 井若 和久 (徳島大学)

口頭発表 1D-1 「循環型社会」

D会場（3階3205教室）9：30～10：45

座長： 田畑智博（神戸大学）

- 1D-0930 日本の食品ロス発生量の品目別推定およびその貿易を通じた影響の評価
○棟居洋介 (東京工業大学), 増井利彦 (国立環境研究所)
- 1D-0945 衛星夜間光を用いた建築物・道路ストック量の推計
○杉本賢二 (大阪工業大学), 奥岡桂次郎, 谷川寛樹 (名古屋大学)
- 1D-1000 バルト3国におけるワンウェイ容器のデポジット制度について
○沼田大輔 (福島大学)
- 1D-1015 東京23区における不統一なプラスチック製容器包装の分別収集
○庄子真憲 (法政大学)
- 1D-1030 機能を中心とした食品と容器包装のライフサイクル評価手法
○横川直毅, 天沢逸里, 杉山弘和, 平尾雅彦 (東京大学)

口頭発表 1C-2 「環境技術」

C会場（3階3201教室）11：00～12：00

座長： 中井智司（広島大学）

- 1C-1100 **論文賞受賞記念講演**：バイオガス中のCO₂を施用したスジアオノリの陸上養殖
○大門裕之, Lee Yuan, 宮下公一, 蒲原弘継, 熱田洋一 (豊橋技術科学大学)
- 1C-1115 製鋼スラッグの浅場造成材としての評価
伊藤貴俊, ○中井智司, 後藤健彦, 西嶋渉 (広島大学), 谷本照己 (産業技術総合研究所)
- 1C-1130 キノコ廃菌床のバイオマス発電利用に関するライフサイクル評価
○浅川侑貴, 荒木賢人, 薬師寺佑佳, 石橋康弘 (熊本県立大学)
- 1C-1145 好気高熱性細菌 (*Bacillus licheniformis*.) を用いたグリセリン含有排水の処理
○荒木賢人, 山野浩二, 甲斐穂高, 山口雅裕, 薬師寺佑佳, 石橋康弘 (熊本県立大学)

口頭発表 1D-2 「環境意識と環境行動」

D会場（3階3205教室）11：00～12：00

座長： 大塚佳臣（東洋大学）

- 1D-1100 家電製品のシェアリングに対する消費者受容性：持続可能な消費スタイルへの転換に向けて
○文多美 (東京大学), 田原聖隆 (産業技術総合研究所), 天沢逸里, 鈴木祐里絵,
平尾雅彦 (東京大学)

- 1D-1115 環境活動のためのボランティア募集と ICT 利用についての実態調査
○前田恭伸 (静岡大学), 森保文 (国立環境研究所), 浅野敏久 (広島大学), 犬塚裕雅 (専修大学)
- 1D-1130 中高生のライフスタイルに関する フォーカス・グループ・インタビュー
○吉田綾, 青柳みどり (国立環境研究所)
- 1D-1145 ボトル給水ステーションの設置がサステイナブル・キャンパスの実現に果たす役割の検討
○Ynacay-NyeAlayna, 上原拓郎 (立命館大学)

【1日目 (9月10日) 午後】

口頭発表 1C-3 「リスク・曝露評価」

C 会場 (3 階 3201 教室) 14:00~15:15

座長: 東海明宏 (大阪大学)

- 1C-1400 **奨励賞受賞記念講演**: 化学物質の環境挙動解析と曝露・リスク評価に関する研究
○三宅祐一 (静岡県立大学)
- 1C-1415 調理により生成する多環芳香族炭化水素とその塩素化体の経路別曝露量の比較
○増田美里, 王齊, 徳村雅弘, 三宅祐一, 雨谷敬史 (静岡県立大学)
- 1C-1430 東北沿岸の漂着プラスチックに関する毒性評価: ブラインシュリンプ (*Artemia salina*) による吸着成分の急性毒性
杉本海友, ○寺崎正紀 (岩手大学)
- 1C-1445 自然災害に起因する非定常の化学物質流出削減策の評価枠組みの構築
○小島直也, 田渕裕也 (大阪大学), 豊田真弘 (日本エヌ・ユー・エス), 松浦誠, 東海明宏 (大阪大学)
- 1C-1500 福島第一原子力発電所事故後のマルチプルリスクの比較
○村上道夫 (福島県立医科大学), 坪倉正治 (南相馬市立総合病院), 小野恭子 (産業技術総合研究所)

口頭発表 1D-3 「政策評価・提言」

D 会場 (3 階 3205 教室) 14:00~15:15

座長: 阿部直也 (東京工業大学)

- 1D-1400 **論文賞受賞記念講演**: 大都市圏と地方部の自動車のリバウンド効果
一家計調査を用いた実証分析
○阿部達也 (早稲田大学), 松本茂 (青山学院大学), 岩田和之 (松山大学)
- 1D-1415 **奨励賞受賞記念講演**: 経済モデルによる環境・エネルギー政策の分析に関する研究
○松本健一 (長崎大学)
- 1D-1430 東京都排出量取引制度の事後評価
有村俊秀, ○阿部達也 (早稲田大学)
- 1D-1445 動学的多地域多部門モデル THERESIA を用いた CCS 導入時における約束草案の影響評価
○伊野弘暉 (東京工業大学), 森俊介 (東京理科大学)
- 1D-1500 環境科学のアウトリーチへの提言
○一ノ瀬俊明 (国立環境研究所/名古屋大学)

口頭発表 1C-4 「環境動態」

C 会場 (3 階 3201 教室) 15:30~16:30

座長: 三宅祐一 (静岡県立大学)

- 1C-1530 揮発性有機塩素化合物の高濃度地下水から土壌中への気化・拡散挙動の評価
○林知美, 末継淳, 田小維, 小林剛 (横浜国立大学)
- 1C-1545 紀伊半島南部における古座川水系源流域の渓流水質
○苗村晶彦 (戸板女子短期大学), 初山守 (南紀沢水調査隊), 奥田知明 (慶應義塾大学)

- 1C-1600 ブラジル国金鉱山における環境中水銀の動態調査
○丸本幸治, 丸本倍美 (国立水俣病総合研究センター)
- 1C-1615 残留農薬特性を考慮した自己組織化マップによる作物分類
○伊香慶彦, 周靨, 小島直也 (大阪大学), 與語靖弘 (日本植物調節剤研究協会), 東海明宏 (大阪大学)

口頭発表 1D-4 「都市とエネルギー」

D 会場 (3 階 3205 教室) 15 : 30~16 : 30

座長 : 中谷隼 (東京大学)

- 1D-1530 **論文賞受賞記念講演** : 用途の異なる街区の組み合わせに対するスマートグリッド適用効果
伊達貴彦 (米国三井物産), ○栗栖聖 (東京大学), 花木啓祐 (東洋大学)
- 1D-1545 利用者のライフステージに着目した住宅用蓄電システムの普及方策に関する考察
○阿部直也 (東京工業大学)
- 1D-1600 家庭の消費電力予測に適したクラスター分析法の選定
○小田佑馬, 加藤尊秋 (北九州市立大学)
- 1D-1615 我が国の燃料貧困世帯に関する基礎的調査
○田畑智博 (神戸大学), 蔡佩宜 (横浜市立大学)

【2 日目 (9 月 11 日) 午前】

口頭発表 2D-1 「再生可能エネルギー」

D 会場 (3 階 3205 教室) 9 : 30~10 : 45

座長 : 村野昭人 (東洋大学)

- 2D-0930 福島県内 4 地域における再生可能エネルギーによる地域再生に関する研究
白井信雄 (山陽学園大学), ○小澤はる奈 (環境自治体会議環境政策研究所)
- 2D-0945 グリッドデータによる首都圏の太陽光発電の導入可能量調査
○島崎洋一 (山梨大学)
- 2D-1000 神奈川県における住宅用太陽光発電の普及に向けた蓄電池の導入条件について
○車椋太 (東京工業大学), 増井利彦 (国立環境研究所), 棟居洋介 (東京工業大学), 金森有子 (国立環境研究所)
- 2D-1015 農業用水の流量制御が小水力発電事業による経済効果に与える影響
○立花潤三 (富山県立大学)
- 2D-1030 廃棄物発電のネットワーク化・小売事業化の有効性評価
○林直樹, 松本亨 (北九州市立大学)

口頭発表 2D-2 「省エネルギー」

D 会場 (3 階 3205 教室) 11 : 00~12 : 00

座長 : 田崎智宏 (国立環境研究所)

- 2D-1100 東京都排出量取引制度とオフィスビルにおける省エネ対策・技術の普及
○尾沼広基, 矢島猶雅, 有村俊秀 (早稲田大学)
- 2D-1115 緑のカーテンの存在が与える影響に関する構造分析
○村上一真 (滋賀県立大学)
- 2D-1130 冷房使用をめぐる緩和行動と適応行動の対立と緑地・クールシェアの役割
○陳宇霖, 近藤加代子 (九州大学), LeslieMabon (Robert Gordon University), 包清博之 (九州大学), 石婉瑜 (銘傳大学), 畢亦凡 (九州大学)
- 2D-1145 社会的要因と心理的要因との相互関係に基づく省エネルギー行動の分析
○松本安生 (神奈川大学)

口頭発表 2C-3 「国際環境問題」

C会場（3階 3201 教室）13：30～14：45

座長： 荒巻俊也（東洋大学）

- 2C-1330 気候変動への適応策を地域で考えるワークショップの試行と成果・課題
～長野県高森町での事例～
○中村洋（地球・人間環境フォーラム），白井信雄（山陽学園大学），田中充（法政大学）
- 2C-1345 南極海における海洋保護区ネットワークをめぐる国際交渉と日本の対応
○大久保彩子（東海大学）
- 2C-1400 水銀汚染とその対策－ウルグアイ国・ラプラタ河岸湿地帯での国際協力事例から
○吉田充夫（国際環境協力ネットワーク），（国際協力機構地球環境部）
- 2C-1415 白金の供給構造とその不安定性が環境対策に及ぼす影響
○松本凱斗，村上進亮（東京大学）
- 2C-1430 National and subnational institutional challenges and opportunities to achieve the Sustainable Development Goals: Comparing Japan and Indonesia
○森田香菜子（森林研究・整備機構 森林総合研究所），OkitasariMahesti ，
増田大美（国連大学サステイナビリティ高等研究所）

口頭発表 2D-3 「環境指標」

D会場（3階 3205 教室）13：30～14：45

座長： 本下晶晴（産業技術総合研究所）

- 2D-1330 より良い暮らし指標の評点と重みの考察と持続可能発展指標の検討
○松橋啓介（国立環境研究所）
- 2D-1345 持続可能性にかんする多様な目標を統合的に評価する指標の構築
○高井亨（鳥取環境大学）
- 2D-1400 生物多様性に関する環境指標及び環境認証の多重比較分析
○吉田謙太郎（九州大学），安可（長崎大学），松本郁子（地球環境戦略研究機関）
- 2D-1415 市レベルの食料自給率算定と水・エネルギーネクサスへの影響評価
○増原直樹，李相賢，谷口真人（総合地球環境学研究所）
- 2D-1430 木材の物質利用時間の推計
○平井満規（立命館大学），小口正弘（国立環境研究所），橋本征二（立命館大学）

口頭発表 2C-4 「環境分析」（化学物質管理戦略研究会 企画）

C会場（3階 3201 教室）15：00～16：00

座長： 小林剛（横浜国立大学）

- 2C-1500 **奨励賞受賞記念講演**：環境分析における定量値の信頼性評価に関する研究
○田原麻衣子（国立医薬品食品衛生研究所）
- 2C-1515 移動体排ガス中に含まれる有機汚染物質の一斉分析
○亀屋隆志，大橋拓未，小林剛（横浜国立大学）
- 2C-1530 網羅分析と全排水毒性試験による下水中の生態影響物質の探索
○高梨啓和，寺田修達，田中孝昌，福元翔大，中島常憲（鹿児島大学），亀屋隆志（横浜国立大学），
澤井淳，宮本信一（いであ株式会社）
- 2C-1545 塩素化多環芳香族炭化水素類（CIPAHs）個人曝露評価のための高感度分析法の開発
○清健人，王齊，増田美里，徳村雅弘，三宅祐一，雨谷敬史（静岡県立大学）

口頭発表 2D-4 「環境情報と意思決定」

D 会場 (3 階 3205 教室) 15 : 00 ~ 16 : 00

座長 : 吉田綾 (国立環境研究所)

- 2D-1500 多主体多目的意思決定問題における評価者のグルーピングに関する研究
ー不法投棄現場汚染修復事業への ANP モデルの適用ー
○藤山淳史 (北九州市立大学), 石井一英, 佐藤昌宏 (北海道大学)
- 2D-1515 制御科学を応用したサステイナブル・デザイン研究の最新動向
○藤平和俊 (環境学研究所)
- 2D-1530 ライフスタイル標準語彙の構築とその評価
ー持続可能で心豊かなライフスタイルデザインにおける発想支援を目指してー
○岸上祐子 (東北大学), 古川柳蔵 (東京都市大学), 溝口理一郎 (北陸先端科学技術大学院大学)
- 2D-1545 地域地場産業における自然と共存する人材資源が持つ情報の役割 ~石巻市雄勝地域事例調査~
○菅原玲 (東北大学), 古川 柳蔵 (東京都市大学)

ポスター発表（優秀発表賞応募発表を含む）

掲示可能期間： 9月10日（月）9：00～11日（火）15：00（15：00までに各自にて撤去願います）

※ 10日（月）11：00までに、ポスターを所定の場所に掲示してください。

※ 11日（火）15：00を過ぎても撤去されていないポスターは、年会実行委員会が撤去・廃棄しますので、ご了承ください。

発表・討論時間：9月10日（月）12：00～14：00（うち、12：30～13：30は「コアタイム」とします）

※ 掲示期間中、ポスターは自由に閲覧することができますが、10日（月）昼の時間帯を発表・討論時間として設定しています。「コアタイム」には、発表者は必ずポスター前にて発表を行ってください。

- P-01 GC/MS スクリーニング分析による水道原水・水道水中の176農薬の実態調査
○小林憲弘, 土屋裕子 (国立医薬品食品衛生研究所), 高木総吉 (大阪健康安全基盤研究所), 宮脇崇 (福岡県保健環境研究所), 門上希和夫 (北九州市立大学), 五十嵐良明 (国立医薬品食品衛生研究所)
- P-02 LC/MS/MS によるヒト用医薬品55種の水環境モニタリング調査
○小林憲弘, 保田井美智子, 土屋裕子, 五十嵐良明 (国立医薬品食品衛生研究所)
- P-03 焼却熱の工場利用の実施可能性調査の報告と一考察
○大西悟 (東京理科大学), 藤井実 (国立環境研究所), 後藤尚弘 (東洋大学)
- P-04 復興まちづくり計画への展開を目指した地域温熱環境評価
○平野勇二郎, 一ノ瀬俊明 (国立環境研究所)
- P-05 企業の森づくり制度の現状と課題
小池貴之 (元神戸大学), ○小林徹哉 (神戸市公園緑化協会神戸市立森林植物園), 大野朋子 (神戸大学)
- P-06 バンコク都における食品廃棄物の現状と課題
○劉晨 (IGES)
- P-07 モンゴルの環境保全に資する近未来の施肥管理手法の適用
○松村寛一郎 (東京農業大学), 一ノ瀬俊明 (国立環境研究所), 杉本賢二 (大阪工業大学), 秋山千亜紀 (筑波大学), 渡邊貴典 (関東学院大学), 泉岳樹 (首都大学東京)
- P-08 揮発性有機塩素化合物の多様な土壌への吸着・吸収特性
○小林剛, 末継淳, 林知美, 田小維 (横浜国立大学)
- P-09 釧路湿原シラルトロ湖における水環境の挙動とヒシの繁茂について
○清水日香里, 吉田磨, 今村源太 (酪農学園大学)
- P-10 日本企業における環境取り組み促進要因：省エネ法と組織構造の効果
○矢島猶雅 (早稲田大学), 有村俊秀 (早稲田大学政治経済学術院), 井上恵美子 (京都大学)
- P-11 生活関連物質が大腸菌の交差耐性に与える影響
真名垣聡, ○日野翔太, 小林美佳 (武蔵野大学)
- P-12 機能を中心とした食品と容器包装のライフサイクル評価手法
○横川直毅, 天沢逸里, 杉山弘和, 平尾雅彦 (東京大学)

- P-13 サメ資源利用の現状と管理課題
○駒形涼 (東海大学大学院)
- P-14 観光客数と自然資本・社会資本の関係について -離島データを用いた分析-
○横濱佟介 (早稲田大学), 有村俊秀 (早稲田大学政治経済学術院),
功刀祐之 (早稲田大学環境経済・経営研究所)
- P-15 建築物の構造・用途ごとの建設資材蓄積量及び更新量の推計
-東京都及び周辺都市を対象とした同一性判定のケーススタディ-
○朝隈友哉, 奥岡桂次郎, 谷川寛樹 (名古屋大学)
- P-16 建築物実態調査に基づく空き家の空間分布の推計
~北九州市の建築物詳細情報を用いたケーススタディ~
○正木晃平, 谷川寛樹, 奥岡桂次郎 (名古屋大学), 深堀秀敏 (北九州市立大学)
- P-17 空き家の外部不経済の推計 -東京都豊島区を事例として-
○金山友喜 (早稲田大学)
- P-18 建築物滞留モデルを用いた住宅利用量及び空き家に関わる退蔵ストックの推計
○山本大陸, 谷川寛樹, 奥丘桂次郎, 藤田恭介 (名古屋大学)
- P-19 都市・森林間における木材需給バランスを考慮した最適な輸送システムの検討
-木曽川流域におけるケーススタディ-
○山下奈穂, 谷川寛樹, 奥岡桂次郎 (名古屋大学)
- P-20 時系列道路ネットワークデータベースを用いた, 道路インフラにおける物質ストックの退蔵・退役量の推計
○藤田恭介, 谷川寛樹, 奥岡桂次郎 (名古屋大学)
- P-21 可処分時間の余剰を投入した農的活動による影響評価 LCCO₂と土地の有効利用の観点から
○程藍, 小島直也, 東海明宏 (大阪大学)
- P-22 多様なアジサイ品種の導入による自然交雑実生の発生と周辺環境への影響
○縄井あゆみ (神戸大学), 小林徹哉 (神戸市公園緑化協会神戸市立森林植物園),
前中久行 (NPO 法人緑の地球ネットワーク), 大野朋子 (神戸大学)
- P-23 大気中の粒子状ホウ素の濃度と同位体比に及ぼす石炭燃焼の影響評価
○谷洋平, 坂田昌弘 (静岡県立大学)
- P-24 反応速度論的解析に基づく排水処理プロセスの改善策の提案
○村松孝亮, 五老祐大, 王斉, 徳村雅弘 (静岡県立大学), 安保貴永, 皆川正和,
石橋龍太郎 (三菱ケミカル株式会社), 三宅祐一, 雨谷敬史
- P-25 好気高熱性細菌 (*Bacillus licheniformis*.) を用いたグリセリン含有排水の処理
○荒木賢人, 山野浩二, 甲斐穂高, 山口雅裕, 薬師寺佑佳, 石橋康弘 (熊本県立大学)
- P-26 揮発性有機塩素化合物の高濃度地下水からの土壌中での気化・拡散挙動の評価
○林知美, 末継淳, 田小維, 小林剛 (横浜国立大学)
- P-27 調理により生成する多環芳香族炭化水素とその塩素化体の経路別曝露量の比較
○増田美里, 王斉, 徳村雅弘, 三宅祐一, 雨谷敬史 (静岡県立大学)
- P-28 Himawari-8 を用いた北西太平洋域の高空間・高時間分解能雲分類マップの作成
-2016年に発生した台風18号に着目して-
○佐藤勝哉, 白木洋平 (立正大学)

- P-29 動学的多地域多部門モデル THERESIA を用いた CCS 導入時における約束草案の影響評価
○伊野弘暉 (東京工業大学), 森俊介 (東京理科大学)
- P-30 キノコ廃菌床のバイオマス発電利用に関するライフサイクル評価
○浅川侑貴, 荒木賢人, 薬師寺佑佳, 石橋康弘 (熊本県立大学)
- P-31 木材の物質利用時間の推計
○平井満規 (立命館大学), 小口正弘 (国立環境研究所), 橋本征二 (立命館大学)
- P-32 廃棄物発電のネットワーク化・小売事業化の有効性評価
○林直樹, 松本亨 (北九州市立大学)
- P-33 家庭の消費電力予測に適したクラスター分析法の選定
○小田佑馬, 加藤尊秋 (北九州市立大学)
- P-34 神奈川県における住宅用太陽光発電の普及に向けた蓄電池の導入条件について
○車椋太 (東京工業大学), 増井利彦 (国立環境研究所), 棟居洋介 (東京工業大学), 金森有子 (国立環境研究所)
- P-35 福島県浜通りにおける環境放射線量率の測定
○橋本碧 (関西学院千里国際高等部)
- P-36 富士山 5 合目のササラダニ類の遷移に対する攪乱の影響
大島敦子, 土屋紅葉, ○水上乃愛 (山梨英和高等学校)
- P-37 新規環境汚染物質である塩素化多環芳香族炭化水素類の包括的かつ統合的環境影響評価
○天野あすか, 五老祐大, 徳村雅弘, 王斉, 内藤博敬, 三宅祐一, 雨谷敬史, 牧野正和 (静岡県立大学)
- P-38 ハウスダストを介した規制・未規制難燃剤の曝露・リスク評価
○三輪春樹, 古川美乃里, 王斉, 徳村雅弘, 三宅祐一, 雨谷敬史 (静岡県立大学), 高橋ゆかり (富山国際大学)
- P-39 バングラデシュにおける稲品種および水管理方法の違いによるコメ中ヒ素および重金属濃度への影響
○宮崎淳平, 村松孝亮, 五老祐大, 徳村雅弘 (静岡県立大学), イスラムムハンマド (バングラデシュ農業大学), 王斉, 三宅祐一, 坂田昌弘 (静岡県立大学), 益永茂樹 (横浜国立大学)
- P-40 公設卸売市場における青果物残渣の堆肥化事業による地域循環圏の構築
○前田桜我, 松本亨 (北九州市立大学), 松尾康志 (楽しい株式会社)
- P-41 製剤中難燃剤の直接接触に伴う経皮曝露量推算のための測定デバイスの開発
○新堂真生, 寺尾琴音, 村松孝亮, 徳村雅弘, 王斉, 三宅祐一, 雨谷敬史, 牧野正和 (静岡県立大学)
- P-42 塩素化多環芳香族炭化水素類 (CIPAHs) 個人曝露評価のための高感度分析法の開発
○清健人, 王斉, 増田美里, 徳村雅弘, 三宅祐一, 雨谷敬史 (静岡県立大学)

企画シンポジウム

【1日目】

シンポジウム-1 9月10日(月) A会場(2階講義室) 9:30～12:00

「省エネ活動のハートウェアづくり -自然エネルギー100%大学の事例-」

オーガナイザー 杉本卓也(千葉商科大学) 准教授

原科幸彦(千葉商科大学) 学長

挨拶: 原科幸彦(千葉商科大学) 学長

趣旨説明: 国連の持続可能な開発目標(SDGs)でもGoal-13として提示されている、Climate Actionのための低炭素行動の効果を高め、継続性を向上・維持するための基盤となるハートウェアづくりについて具体的な事例を交えて議論する。気候変動への柔軟な対応は、様々な事業主体に求められており、大学や高校などの高等教育機関も、その果たすべき責任は大きい。

千葉商科大学では、国内の大学で初の「自然エネルギー100%大学」を目指しており、その取り組みが評価され、2017年12月には環境省より「COOL CHOICE LEADERS AWARD(優秀賞)」を受賞した。同大学では教職員、学生が一同となって活動しており、2017年度末に、電力について計算上は、自然エネルギー100%を達成し、現在、その検証中である。これまでの活動報告を交え、人々の意識と行動を変えるハートウェアの形成について検討していく。

講演者: ①「自然エネルギー100%大学へのハード、ソフト、ハート」

原科幸彦(千葉商科大学) 学長

山口勝洋(CUC エネルギー株式会社) 事業開発部長

②「千葉商科大学の取組み-学生、教職員の諸活動-」

杉本 卓也(千葉商科大学) 准教授

江波戸順史(千葉商科大学) 准教授

③「自然エネルギー100%社会を担う若手人材に求められる基礎スキル」

田中信一郎(一般社団法人地域政策デザインオフィス) 代表理事

④「大学の省エネ活動を学びの場に~東邦 Ecolution の活動報告~」

竹内彩乃(東邦大学) 講師

総合討論

討論者: 平田仁子(Climate Action Network(CAN)・Japan) 代表

鮎川ゆりか(千葉商科大学) 元教授

司会: 高橋百合子(千葉商科大学) 教授

シンポジウム-2 9月10日(月) B会場(3階3114教室) 9:30～12:00

「室内環境における化学物質管理の現状と関連法規制の動向」

プロジェクト名: 厚生労働科学研究費補助金(H29-化学一般-004)

「室内環境中の化学物質リストに基づく優先取組物質の検索とリスク評価」

オーガナイザー 雨谷敬史(静岡県立大学) 教授

三宅祐一(静岡県立大学) 助教

挨拶: 雨谷敬史(静岡県立大学) 教授

趣旨説明: 1990年代に社会問題化したシックハウス・シックスクール問題は、建築基準法によるホルムアルデヒドなどの使用制限、13種の化学物質の室内環境指針値の策定により改善されてきた。しかし、規制対象物質の代替物が開発・使用されており、それらがどのような有害性を示し、どのように曝露されているのかについての知見は乏しい。また、2012年よりシックハウス(室内空気汚染)問題に関する検討会が再開され、室内濃度指針値の見直し等が進められている。このような国内外の最新動向を踏まえながら、室内空気汚染に関する未規制物質の問題について本シンポジウムを通して考えてみたい。

講演者: ①「室内空気汚染物質の実態把握と気道障害性の予測」

神野透人(名城大学薬学部) 教授

②「WHO や諸外国の取り組みと室内汚染物質の健康リスク」

東 賢一（近畿大学医学部）准教授

③「ハウスダストを介した難燃剤の曝露評価とリスク評価」

雨谷敬史（静岡県立大学食品栄養科学部）教授

④「生体ガスを利用した室内化学物質曝露評価の今後の展開」

関根嘉香（東海大学理学部）教授

総合討論

司 会：雨谷敬史（静岡県立大学）教授

シンポジウム - 3 9月10日（月） A会場（2階講義室） 14:00～16:30

「アジアにおける都市化とグローバル化に由来する環境衛生の課題」

オーガナイザー 戸敷浩介（宮崎大学）准教授

内藤博敬（静岡県立大学）助教

挨拶： 戸敷浩介（宮崎大学）准教授

趣旨説明： 経済成長に伴い、都市化とグローバル化が進行するアジアでは、都市廃棄物やモータリゼーション、有害化学物質の国際間移動などが、各地で新たな環境問題や衛生問題を引き起こしている。こうした諸問題について、多くの研究者が取り組んでいるが、視点や対象が水や生体、有害化学物質や感染症のように異なれば、その詳細な知見を共有する機会は限られている。しかし、問題の背景や国際共同研究の課題など、相互に参考となる情報が多くある。本シンポジウムは、アジアの都市化とグローバル化による環境・衛生問題に取り組む研究について紹介しながら、学際的な情報共有の場として議論を行う。

講演者：①「中国の廃棄物資源輸入禁止が開発途上国の環境に与える影響」

劉 庭秀（東北大学）教授

②「モータリゼーションと鉛汚染—モンゴル国の事例—」

戸敷浩介（宮崎大学）准教授

③「ベトナム E-waste リサイクルによる環境汚染と人への曝露」

小栗朋子（産業技術総合研究所安全科学研究部門）主任研究員

④「国際社会と感染症」

内藤博敬（静岡県立大学）助教

⑤「Bangladeshにおける環境調査—汚染レベルと世界とのつながり—」

益永茂樹（横浜国立大学）名誉教授

総合討論

司 会：戸敷浩介（宮崎大学）准教授

シンポジウム - 4 9月10日（月） B会場（3階3114教室） 14:00～16:30

「地域環境政策におけるトランジションマネジメントを考える」

オーガナイザー 白井信雄（山陽学園大学）教授

杉山範子（名古屋大学）特任准教授

挨拶： 白井信雄（山陽学園大学）教授

趣旨説明： 気候変動や資源・エネルギー問題等の解決のためには、慣性システムを根本に再構築していくための構造転換策が必要である。構造転換策には、脱グローバル化：エネルギーの地産地消、脱化石燃料：木材循環圏等の形成、脱東京集中・郊外化：スマートシュリンク、脱物質化：サービサイジング等がある。これらの構造転換策を地域からボトムアップで生成・普及させていく場合の共通課題として、長期ビジョンの共有、分野間政策統合、利害調整に留まらない共創、主体の深い学びと意識変化、長期的管理の仕組みと組織等がある。こうした課題解決の方法論・実践知を検討するために、構造転換策に関連する研究発表を行い、実践に役立つ知見の豊富化と深化を図る。

- 講演者：①「地域環境政策のリフレーミングとその体系」
竹内恒夫（名古屋大学）教授
- ②「エネルギー地産地消の阻害要因と地域気候政策の課題」
杉山範子（名古屋大学）特任准教授
- ③「気候変動適応による地域トランジションの理論と実践」
白井信雄（山陽学園大学）教授
- ④「サステナビリティ・トランジションに求められる行動と教育」
森朋子（国立環境研究所）特別研究員
- ⑤「フューチャー・デザイン—自治体レベルでの参加型討議と施策立案の実践」
原圭史郎（大阪大学）准教授
- 総合討論
- 司会：杉山範子（名古屋大学）特任准教授
白井信雄（山陽学園大学）教授

【2日目】

シンポジウム - 5 9月11日（火） A会場（2階講義室） 9：30～12：00

学術賞受賞記念シンポジウム

「低環境負荷社会に資する都市・地域の形成にむけて」

オーガナイザー 荒巻俊也（東洋大学）教授
中谷隼（東京大学）講師

挨拶： 荒巻俊也（東洋大学）教授

趣旨説明： 環境負荷を削減するためにさまざまな技術やシステムが提案、開発されている。これらが実際に都市や地域の場に導入されることにより、低環境負荷社会の実現に繋がっていくことになる。そこでは、環境負荷削減の技術やシステムの開発と同時に、それらの導入に伴う諸影響の検討、さまざまなステークホルダーの意見に配慮した戦略的な導入、が必要となる。本シンポジウムでは、科学技術振興機構／戦略的創造推進事業（持続可能な水利用を実現する革新的な技術とシステム：気候変動に適応した調和型都市圏水利用システムの開発）における水利用システム整備に関する検討事例を中心に、環境インフラ整備に伴う諸影響の評価、地域住民を含めたステークホルダーの意見の把握と分析、さらには異なるステークホルダー間の合意形成、などについて国内外を対象にした研究事例を紹介し、低環境負荷社会に資する都市・地域のデザイン手法について議論を行う。

講演者：①「環境インフラ整備におけるステークホルダーの意見に配慮したデザイン手法とその途上国での展開」

荒巻俊也（東洋大学）教授

②「水利用システムの多側面を考慮した影響評価と代替案生成」

中谷隼（東京大学）講師

③「水利用システムに対する住民の選好多様性の分析と合意形成の試み」

大塚佳臣（東洋大学）教授

④「見えない水利用に隠れた環境影響への責任」

本下晶晴（産業技術総合研究所）

⑤「住民による環境配慮行動と意識の分析」

栗栖聖（東京大学）准教授

⑥「まちづくりにおける合意形成」

窪田亜矢（東京大学）教授

総合討論

司会：荒巻俊也（東洋大学）教授

シンポジウム - 6 9月11日(火) B会場(3階3114教室) 9:30 ~ 12:00

「CCSの国内法とアジア地域における共通プラットフォームの整備に向けて」

プロジェクト名: 環境研究総合推進費(2-1603)

「二酸化炭素回収・貯留(CCS)の普及・導入に関する法的枠組みと政策戦略に関する研究」

オーガナイザー 柳憲一郎(明治大学) 専任教授

小松英司(明治大学) 専門研究員

挨拶: 柳憲一郎(明治大学) 専任教授

趣旨説明: 昨年度に引き続き、環境研究総合推進費により実施している、「CCSの導入・普及を促進させる経済的、社会的側面を考慮した法規制や政策戦略」の成果報告を行う。本年度はCCS導入・普及を図る法政策モデルや事業を誘導するスキームを提言するとともに、これらの経済的・社会的な効果や影響を議論する。

また、アジア域ではGHG排出量の急増が予測され、2℃目標達成には域内のGHGの大幅削減が急務である。しかるに、アジア内の潜在的貯留量が大きく、CCSが有望である。そこで、国内のモデル・スキームを踏まえ、アジア域でCCSの普及を図るための諸国の法整備や二国・多国間の共同実施で必要となる共通プラットフォームのあり方について議論する。

講演者: ①「CCSの総合政策研究の成果」

柳憲一郎(明治大学) 専任教授

②「CCSの規制影響経済評価の試み」

板岡健之(九州大学) 教授

③「国内におけるCCS関連施設の社会的反応」

村山武彦(東京工業大学) 教授

④「CCSの法・規制の枠組みの構築」

大塚直(早稲田大学) 教授

⑤「アジア域のCCS法政策のプラットフォーム」

小松英司(明治大学) 専任研究員

総合討論

司会: 小松英司(明治大学) 専門研究員

シンポジウム - 7 9月11日(火) C会場(3階3201教室) 9:30 ~ 12:00

「スクリーニング分析法を用いた水道水質検査」

プロジェクト名: 平成30年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)

「水道水質の評価及び管理に関する総合研究」

オーガナイザー 小林憲弘(国立医薬品食品衛生研究所) 室長

木下輝昭(東京都健康安全研究センター) 主任研究員

挨拶: 五十嵐良明(国立医薬品食品衛生研究所) 部長

趣旨説明: 日本では人口減による水需要の減少と老朽化した水道管の更新費用の増加により、水質管理の人員や予算が削減されている。そのような状況下において水道水の安全性を確保し続けるためには、より迅速・簡便な水質検査方法が必要である。本シンポジウムでは、水道水および水道原水中の化学物質を効率よく測定するために、農薬を測定対象として開発したGC/MSスクリーニング分析法の分析精度と、実試料への適用等について議論する。

講演者: ①「水道水質検査のためのGC/MSスクリーニング分析法の開発と適用」

小林憲弘(国立医薬品食品衛生研究所) 室長

②「GC/MSを用いた農薬類のスクリーニング分析における定性・定量精度評価」

高木総吉(大阪健康安全基盤研究所) 主任研究員

③「GC/MSスクリーニング分析における装置性能の評価」

宮脇崇(福岡県保健環境研究所) 研究員

④「環境水中でのアミトラズおよびその分解物の挙動」

木下輝昭(東京都健康安全研究センター) 主任研究員

⑤「農薬類代謝物の分析法検討及び浄水場における検出状況」

吉田仁（大阪健康安全基盤研究所）主任研究員

総合討論

司 会：小林憲弘（国立医薬品食品衛生研究所）室長

シンポジウム－8 9月11日（火） A会場（2階講義室） 13：30～16：00

学術賞受賞記念シンポジウム

「環境情報科学研究の成果と展開」

オーガナイザー 山本佳世子（電気通信大学）准教授

小野聡（立命館大学）助教

挨拶： 山本佳世子（電気通信大学）准教授

趣旨説明： 現代の日本社会では、官民双方から多様な形式のオープンデータが提供されるとともに、多様な分野においてビッグデータが利活用されるようになった。一方、情報通信技術の進化が著しく、情報処理速度が高速化するとともに、情報解析手法も多様化している。また第5期科学技術基本計画で提案された「Society 5.0」の到来により、仮想空間と現実空間の融合も進みつつある。このような「情報」を取り巻く現状を踏まえ、本シンポジウムでは環境科学分野における「情報」を対象とした研究成果を紹介するとともに、今後の展望について議論することを目的とする。

本シンポジウムでは、筆頭オーガナイザーの講演後に、5名の主として若手・中堅研究者に各専門分野の研究成果をご紹介いただくことにする。総合討論では、幅広い年齢層、様々な専門分野の方々にご参加いただき、活発な議論を行いたいと考える。

講演者：①「環境科学分野における情報技術の利活用の可能性」

山本佳世子（電気通信大学）准教授

②「メッシュデータを用いた流域環境解析－水需給に着目して－」

山下亜紀郎（筑波大学）助教

③「将来人口推計に基づいた将来の水環境汚濁負荷量の推計と持続可能な下水道事業の検討」

秋山千亜紀（筑波大学）助教

④「マイクロジオデータを用いた日本全国の家賃形成メカニズムの研究－住環境指標と住宅の市場価値の意外な関係性－」

秋山祐樹（東京大学）助教

⑤「市民・研究者共同調査に基づく地域計画の策定－滋賀県高島市におけるアクションリサーチに基づいて－」

小野聡（立命館大学）助教

⑥「持続可能性アセスメントへの情報技術の応用がもたらすコミュニケーション」

柴田裕希（東邦大学）准教授

総合討論

司 会：山本佳世子（電気通信大学）准教授

シンポジウム－9 9月11日（火） B会場（3階3114教室） 13：30～16：00

「アジア地域における持続可能な消費・生産パターンへの転換のための政策提言」

プロジェクト名：環境研究総合推進費（S-16）

「アジア地域における持続可能な消費・生産パターン定着のための政策デザインと評価」

オーガナイザー 平尾 雅彦（東京大学）教授

田崎 智宏（国立環境研究所）室長

挨拶： 平尾雅彦（東京大学）教授

趣旨説明： 持続可能な開発目標（SDGs）では、持続可能な消費と生産（SCP）パターンの確立が1つの目標になっている。アジア地域では、新興国や開発途上国における資源消費量やGHG排出量の増大が著しく、今後の消費者のライフスタイル変化とデジタルライゼーションなどの技術変革に基

づく生産形態の変化を踏まえつつ、社会経済発展と環境負荷増大をデカップルした SCP パターンの確立が求められる。本シンポジウムでは、多様な学術分野からの調査・分析に基づいて取り纏めた SCP 政策への提言を報告する。総合討論を通して、アジア地域の消費と生産を再構成し、SDGs を達成するための政策デザインについて議論する。

講演者：①「APRSCP との連携によるアジア地域の持続可能な消費と生産の再構成のための 12 の提言」

田崎智宏（国立環境研究所）室長

②「持続可能な開発のための国連ハイレベル政治フォーラムと SDG 12 に関する報告」

堀田康彦（地球環境戦略研究機関）上席研究員

③「国内における SDG12 への統合的アプローチの可能性の検討」

鈴木政史（上智大学・国際連合大学サステイナビリティ高等研究所）教授

④「日本、アジア、欧州における消費者の環境行動」

栗栖聖（東京大学）准教授

⑤「アジア地域における設計-生産-循環一貫型シナリオ」

梅田靖（東京大学）教授

総合討論

司会：平尾雅彦（東京大学）教授